

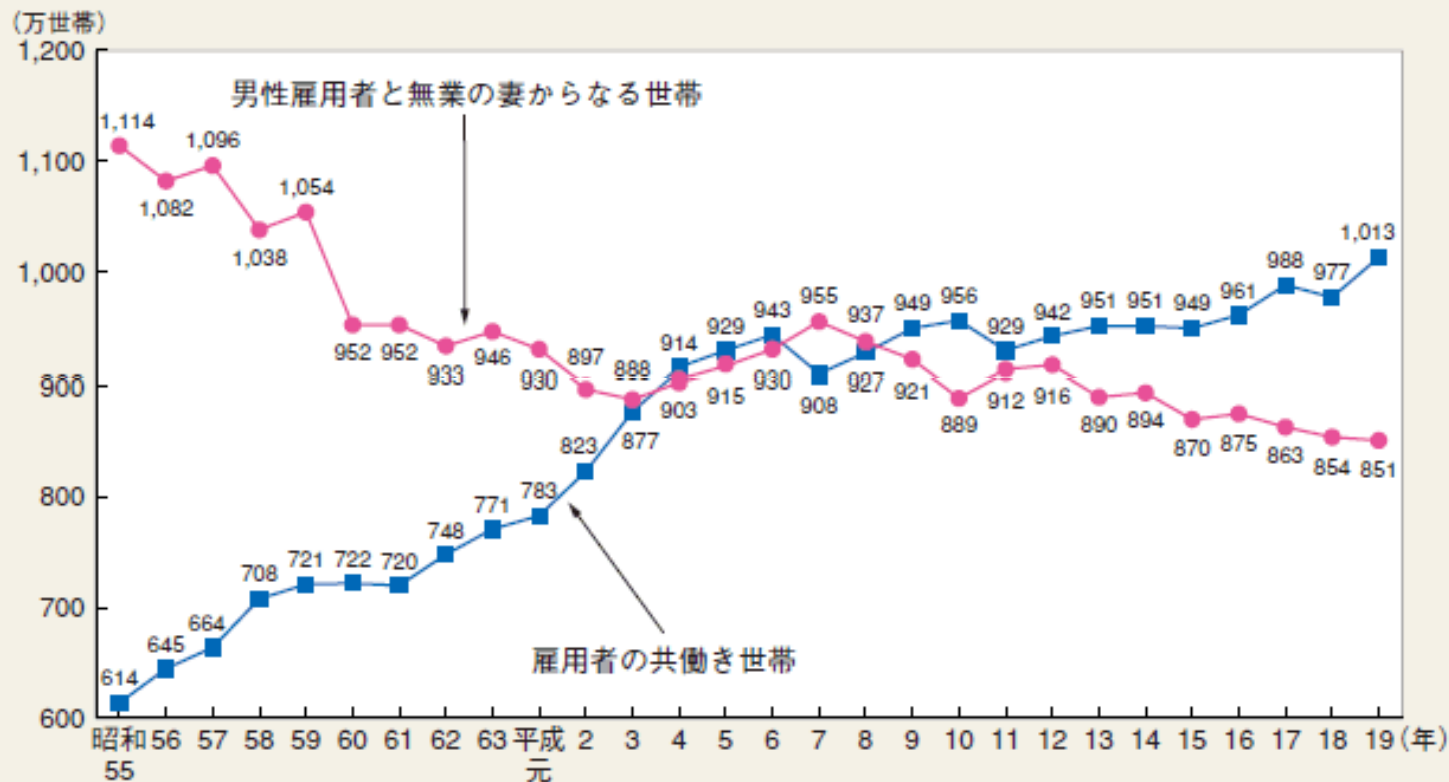
子育て環境の変化

家族・子育て環境・子どもの問題という視点から

特定非営利活動法人
Triple P Japan

- 家族・親の問題
- 子育て環境、ワーク・ライフ・バランスについて
- 子どもの問題

< 親・家族 > 共働き世帯数の推移



- (備考) 1. 昭和55年から平成13年は総務省「労働力調査特別調査」(各年2月。ただし、昭和55年から57年は各年3月)、14年以降は「労働力調査(詳細集計)」(年平均)より作成。
2. 「男性雇用者と無業の妻からなる世帯」とは、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者(非労働力人口及び完全失業者)の世帯。
3. 「雇用者の共働き世帯」とは、夫婦ともに非農林業雇用者の世帯。

< 親・家族 >

現代の子育ての特徴

原田による兵庫レポート(2003年)と大阪レポート(1980年)の比較

□ 小さな子どもに接したり、世話をしたりした経験のない母親が増加

27.6%(1980年) → 42.1%(2003年)

- ・子どもの欲求が分からない。
- ・些細なことでも心配になる。
- ・子どもにどう関わってよいかわからず、子育てに自信がもてない。
- ・イメージしていた子育てと現実の子育てのギャップが大きい。

□ 孤立している母親(こどもが乳幼児期)が増加

- ・近所に話し相手がない母親

4ヶ月児を持った母親:15.5%(1980年)→34.8%(2003年)

1歳半の子を持った母親:10.5%(1980年)→22.5%(2003年)

□ 自分の子どもとよその子どもを比較する母親が増加

10ヶ月児を持った母親:14.8%(1980年) → 61.8%(2003年)

1歳半の子を持った母親:17.2%(1980年) → 71.1%(2003年)

□ 子育てでイライラする

1歳半の子を持った母親:10.8%(1980年) → 31.8%(2003年)

3歳児を持った母親:16.5%(1980年) → 42.9%(2003年)

< 親・家族 >

親=母親?! 父親はどこへ行ったのか...

完璧な親を 目指す

- 子育てに失敗は許されない
- 「よい子」はカッコいいママのブランド品
- 祖父母から、夫からのプレッシャー→ 嫁よりも孫、妻よりも子

励ましかけ だけでは救われ ない

- 行動範囲が狭い
- 夫との会話が足りない、夫の話題についていけない
- 自分の名前がどこにもない(〇〇さんのママ、〇〇の奥さん)
- 子育てが評価されない あたりまえ？

普通の親が 虐待をして しまうとき

- しつけの仕方が分からない。自信がない。
- 誰も教えてくれない。
- エスカレートして止められない。

全て私の せい

- 子どもに何かあったら、私のせい。
- 一人だけで苦労している。
- 自分は「母親」だけでしかないのか？

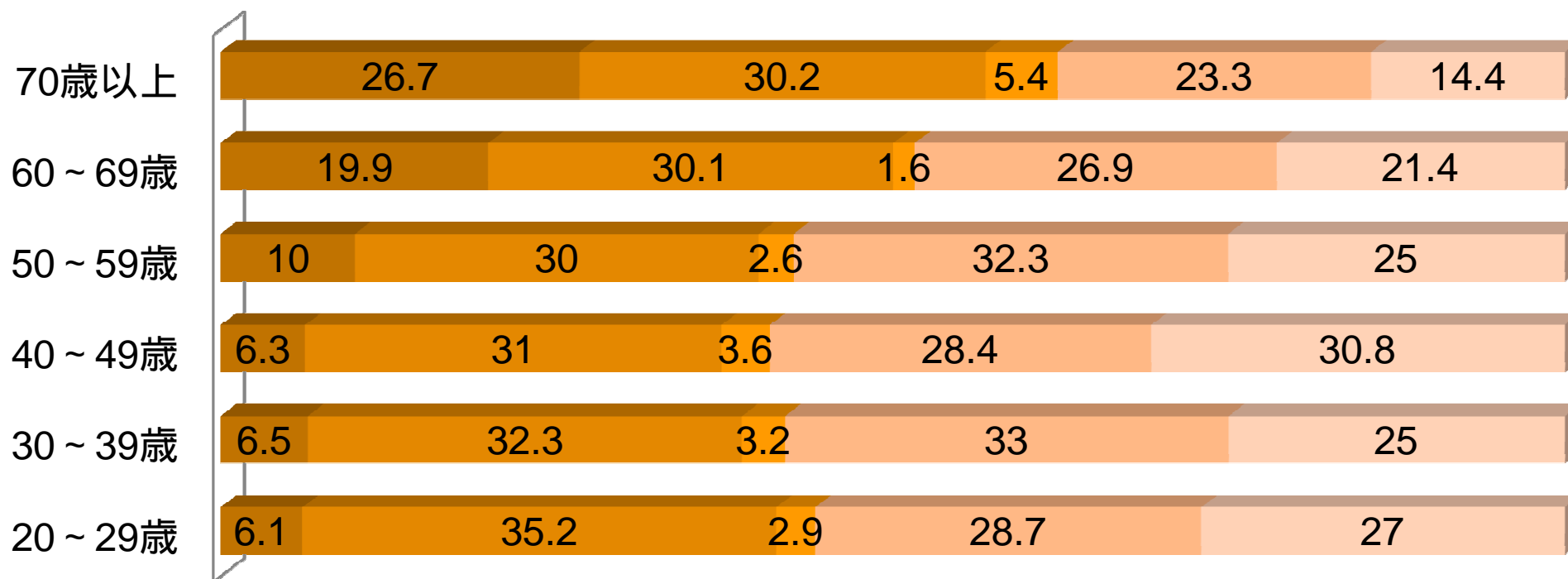
子どもを愛せな
くなる母親の心
がわかる本
監修: 大日向雅
美より

< 親・家族 >

夫は外、妻は内...

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えについて

■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ■ わからない ■ どちらかといえば反対 ■ 反対

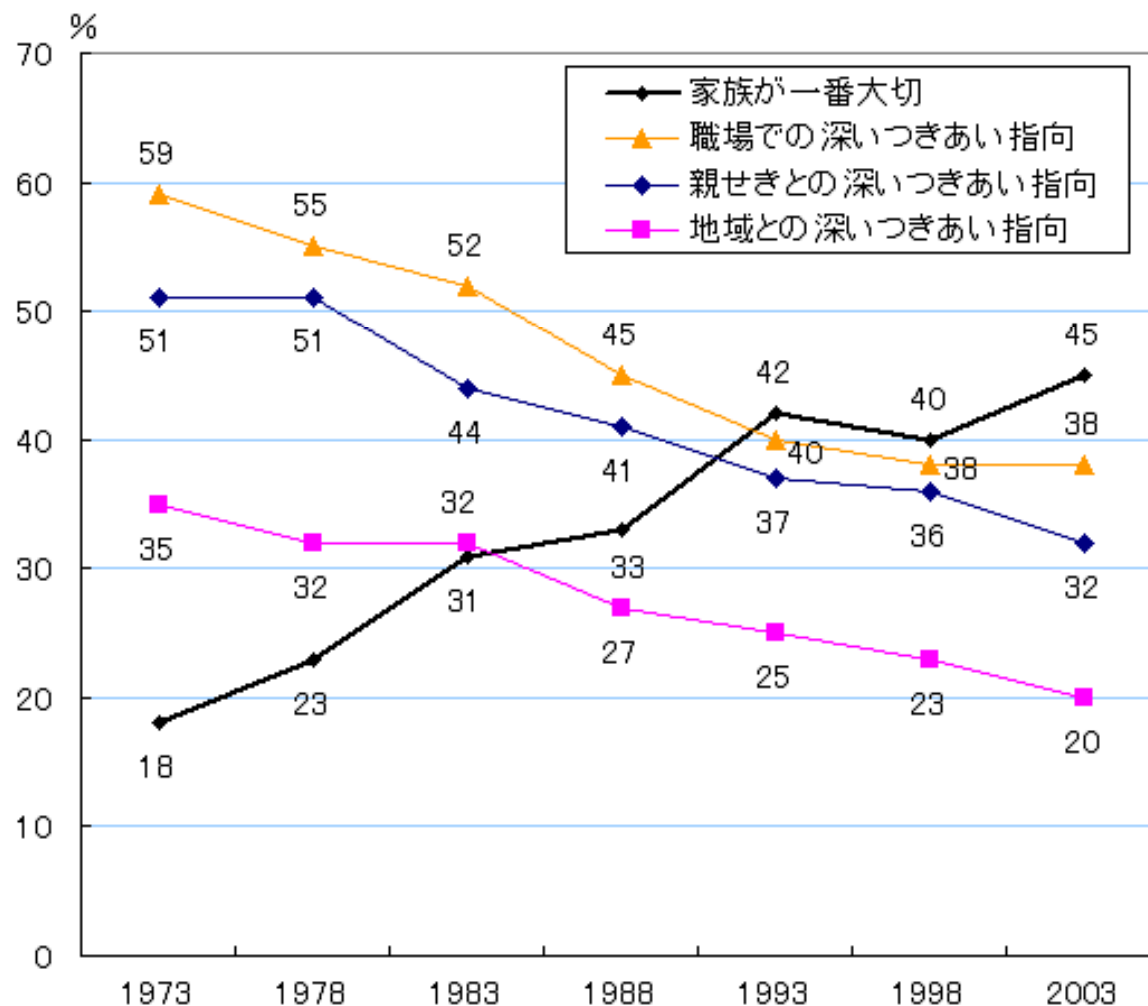


男女平等参画に関する世論調査 内閣府(2007)より

< 子育て環境 >

家族・職場・コミュニティー...

希薄化する職場・親せき・地域とのつきあいと高まる家族の大切さ

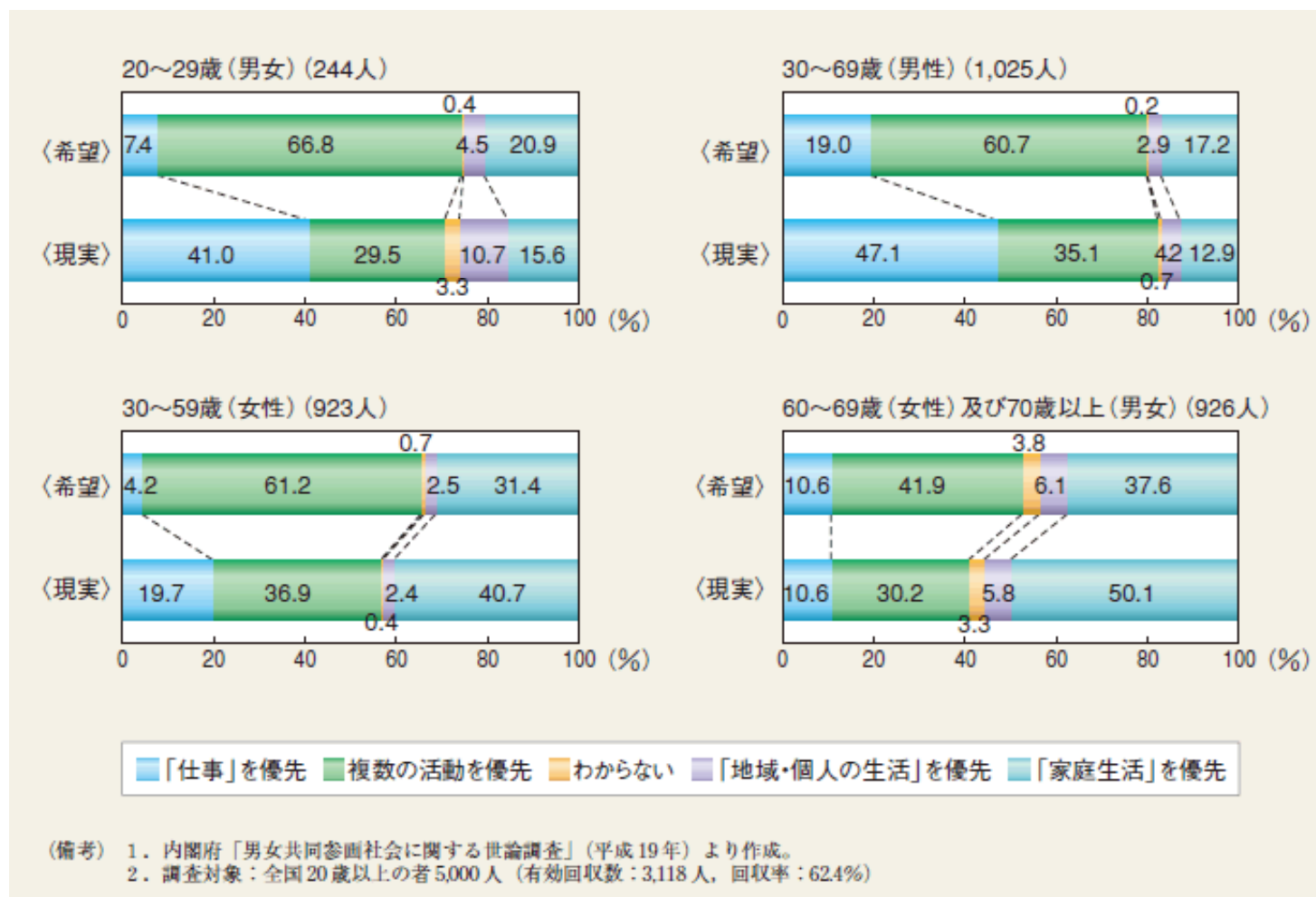


(資料)
内閣府H19国民生活白書
社会実情データ図録より

< 子育て環境 >

ワーク・ライフ・バランス 希望と現実

- 希望と実際のギャップが大きいほど、メンタルの問題が増えると考えられる。

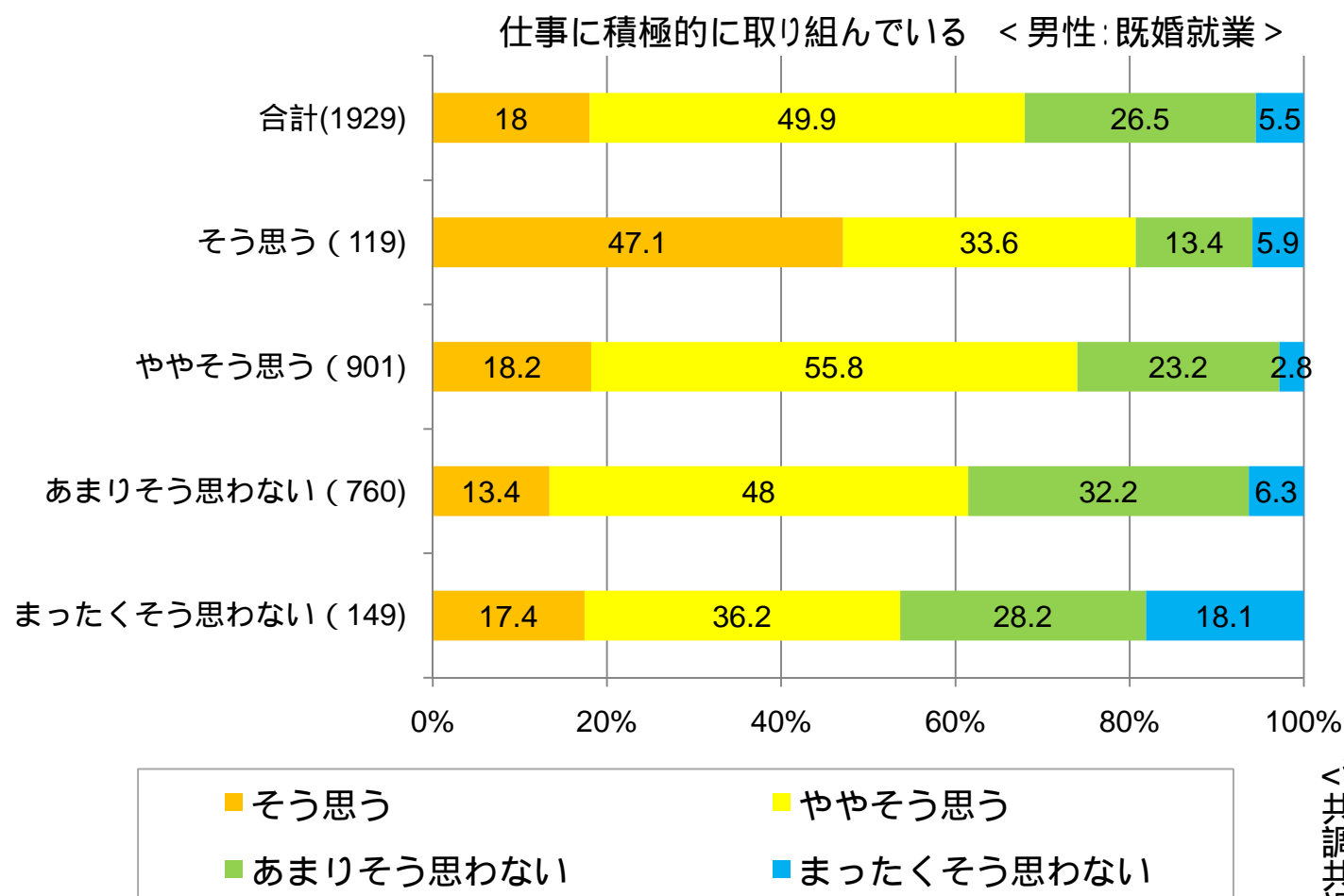


< 子育て環境 >

ワーク・ライフ・バランスと仕事への意欲

□ 子育てしやすい職場環境と感じている人の方が、仕事への意欲が高い

WLBが
取れている
(構成比)



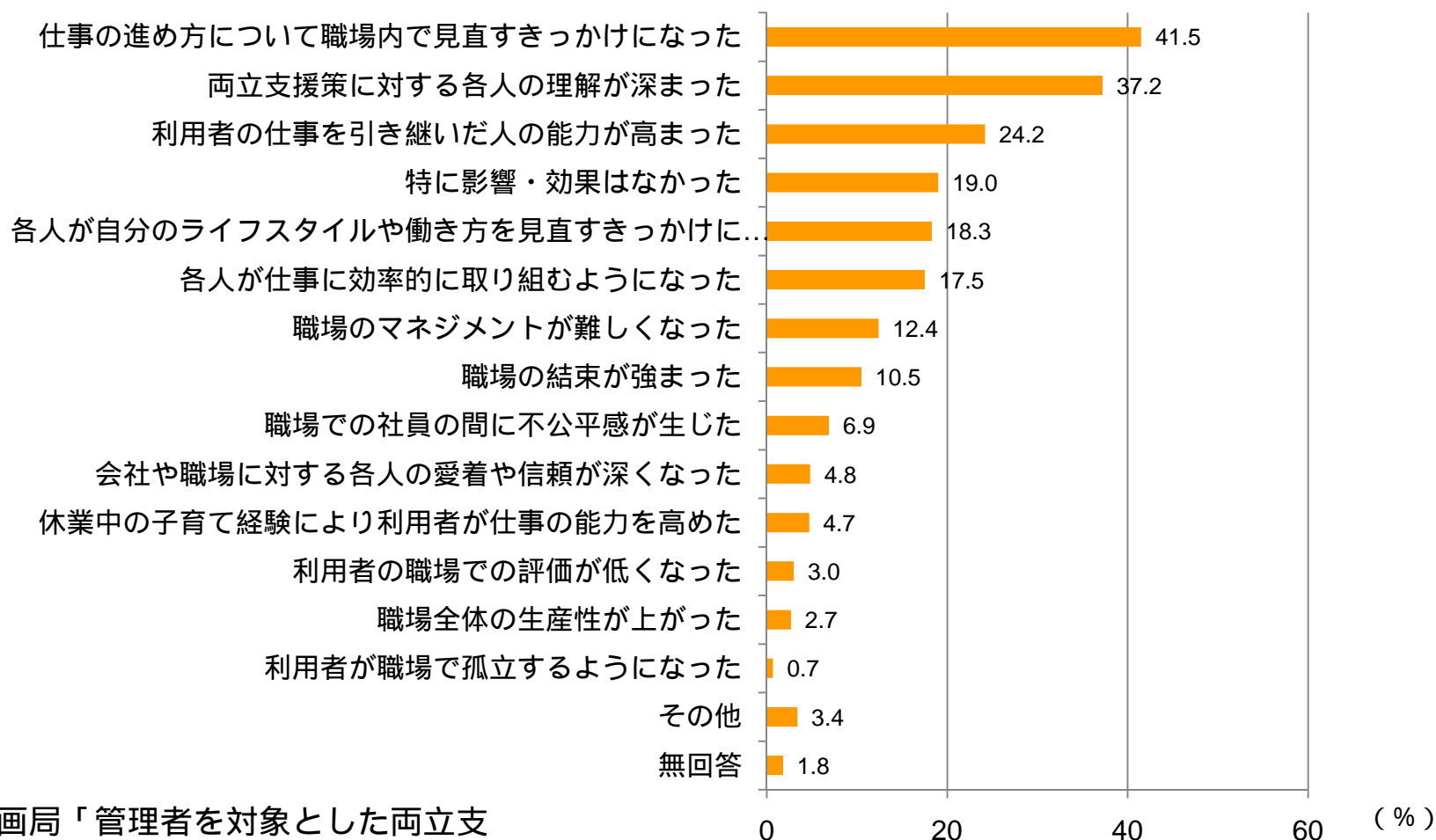
<資料>: 少子化と男女
共同参画に関する専門
調査会「少子化と男女
共同参画に関する意識
調査」平成18年

< 子育て環境 >

育児休業制度、短時間勤務制度利用の職場への影響

□ 管理者を対象とした意識調査より

(複数回答)



男女共同参画局「管理者を対象とした両立支援に対する意識調査」(2005年)より

< 子どもの問題 >

子どもの幸福度 (15歳 国際比較)

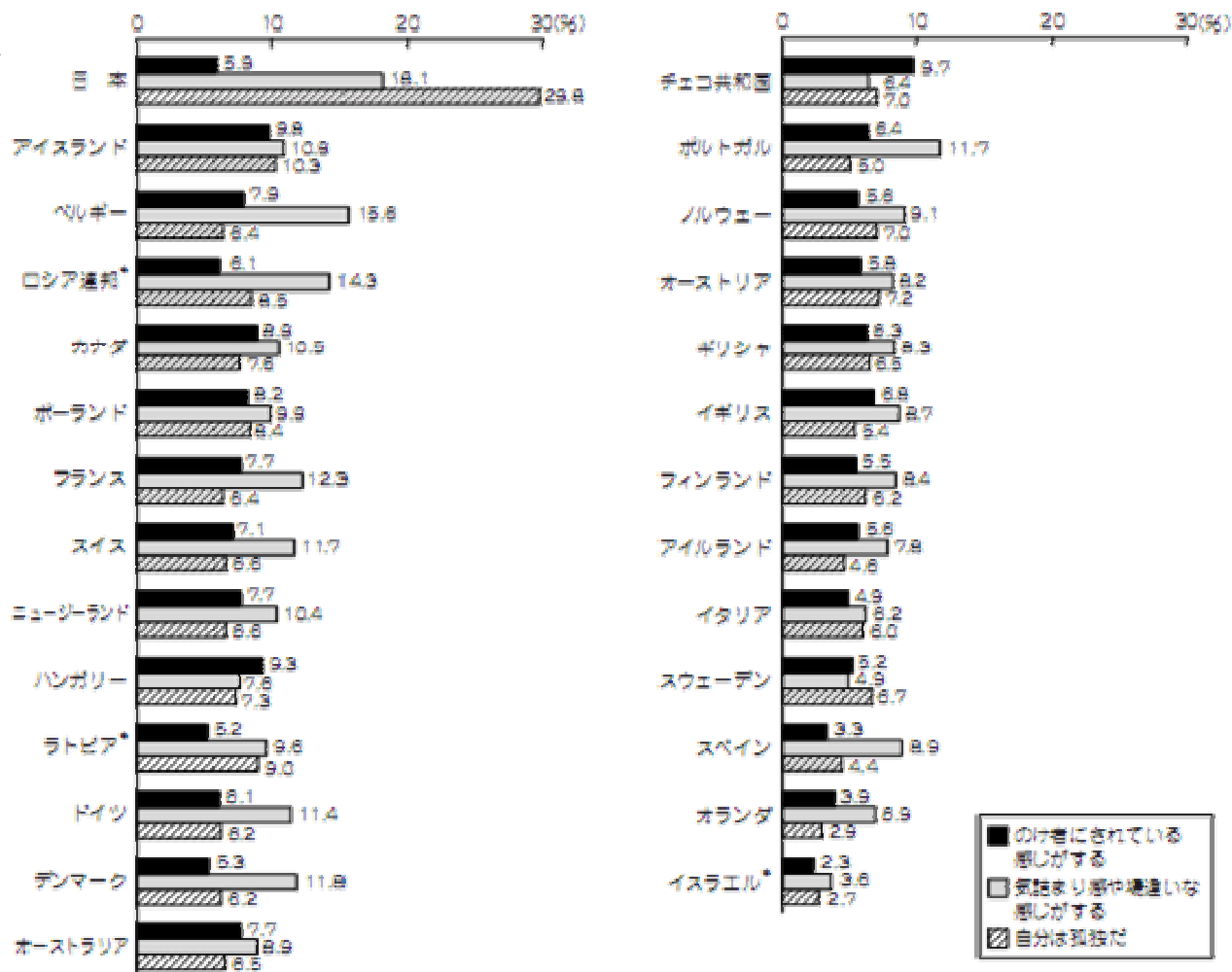
「気詰まり感や場違いな感じがする」「自分は孤独だ」は日本の子どもは他国と比べて、スコアが悪い。

「家族との心理的関係性の薄さ」

「友達との関係性のもろさ」

「コミュニケーション力の低下」

...



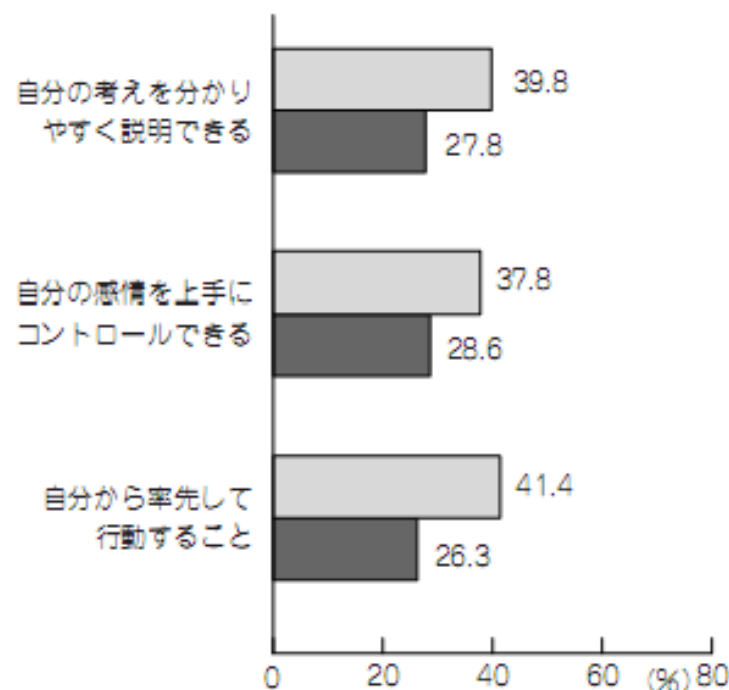
(注) 調査対象は、IX-3-3図 (注) に同じ。*は、OECD以外の国を表す。訳・中央出版。

資料：ユニセフ「An overview of child well-being in rich countries」2007

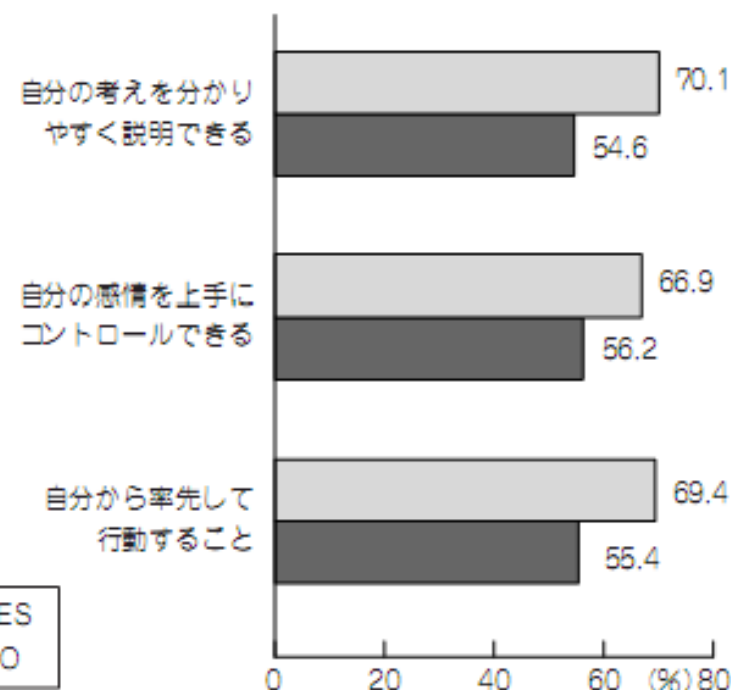
< 子どもの問題 >

親とのコミュニケーション頻度の成人後への影響

1. 子ども時代に親と将来のことをたくさん話した経験のある人の割合



2. 子ども時代に家事手伝いをたくさん経験した人の割合



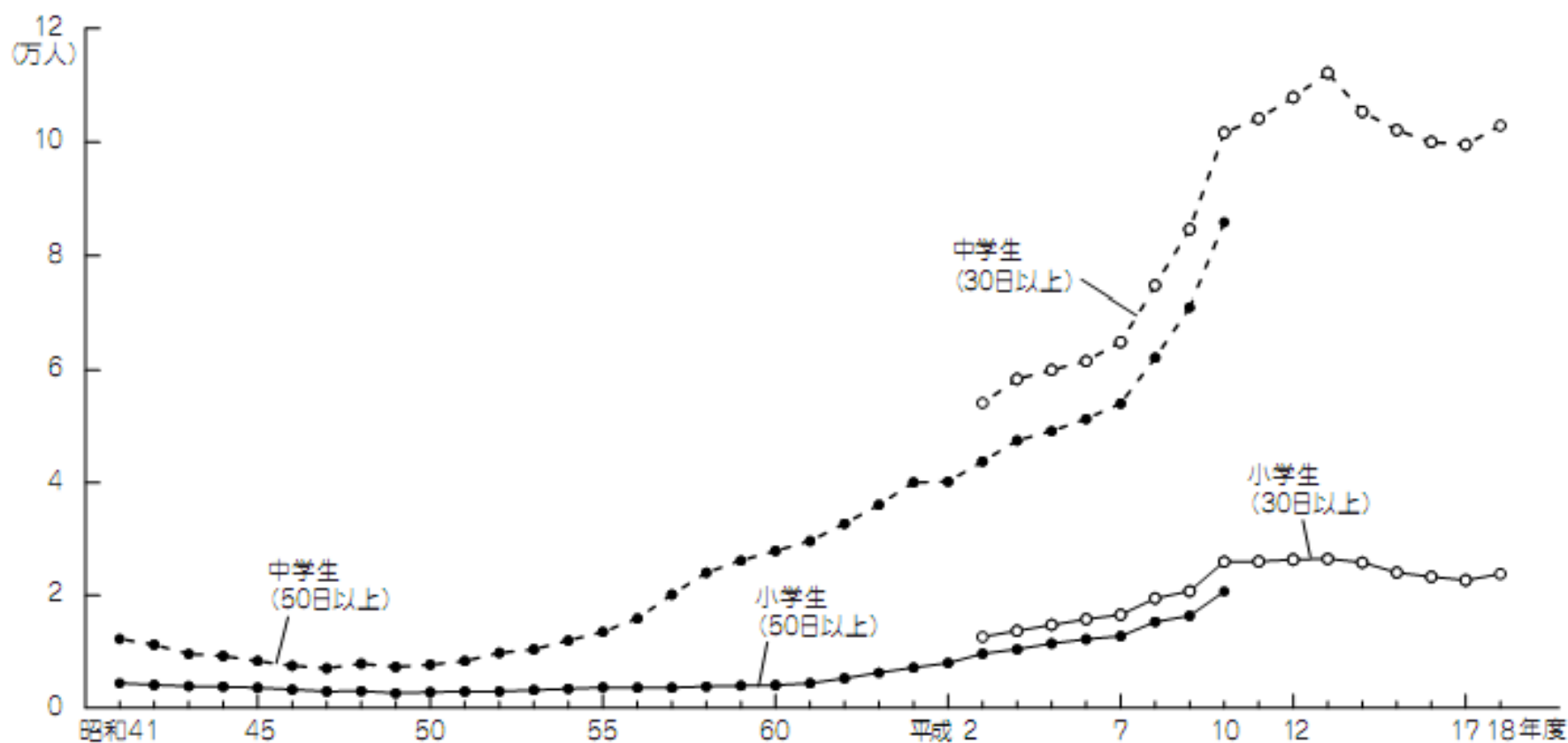
(注) 1 調査対象は、25～35歳の男女2,500人（男女半数ずつ、有職者は1,921人）。平成18年1月インターネット調査。約120万人のモニター母集団から抽出し依頼。

2 各仕事の能力についての自己評価で「よくできている」「まあできている」は「YES」、「あまりできていない」「まったくできていない」は「NO」とし、それぞれ「子ども時代に親と将来のことをたくさん話した経験のある人」の割合と「子ども時代に家事手伝いをたくさん経験した人」の割合を示したもの。

資料：Benesse教育研究開発センター「若者の仕事生活実態調査」2006

< 子どもの問題 >

登校拒否・不登校の児童・生徒数の推移



(文部科学省初等中等教育局 資料より)

< 子どもの問題 >

不登校となったきっかけ別児童生徒数と割合(H18)

区 分		小学生 (名)		中学生 (名)	
学校生活に起因	いじめ	759 (2.5)	7,068(23.7)	3,929(3.3)	45,692(38.4)
	いじめを除く友人関係をめぐる問題	2,898(9.7)		20,266(17.0)	
	教員との関係	782(2.6)		1,649(1.4)	
	学業の不振	1,555(5.2)		10,139(8.5)	
	その他	1074(3.6)		9,709(8.2)	
家庭生活に起因	家庭の生活環境の急激な変化	2,302(7.7)	7,901(26.5)	5,402(4.5)	19,659(16.5)
	親子関係をめぐる問題	4,242(14.3)		9,562(8.0)	
	家庭内の不和	1,357(4.6)		4,695(3.9)	
本人の問題に起因	病気による欠席	2,101(7.1)	11,104(37.3)	7,437(6.3)	44,754(37.6)
	その他本人に関わる問題	9,003(30.2)		37,317(31.4)	
	その他・不明	3,692(12.4)	3,692(12.4)	8,788(7.4)	8,788(7.4)

() は全体に占める割合

(文部科学省初等中等教育局 2007資料より)

< 子どもの問題 >

養護教諭が支援した子どものメンタルヘルスの問題

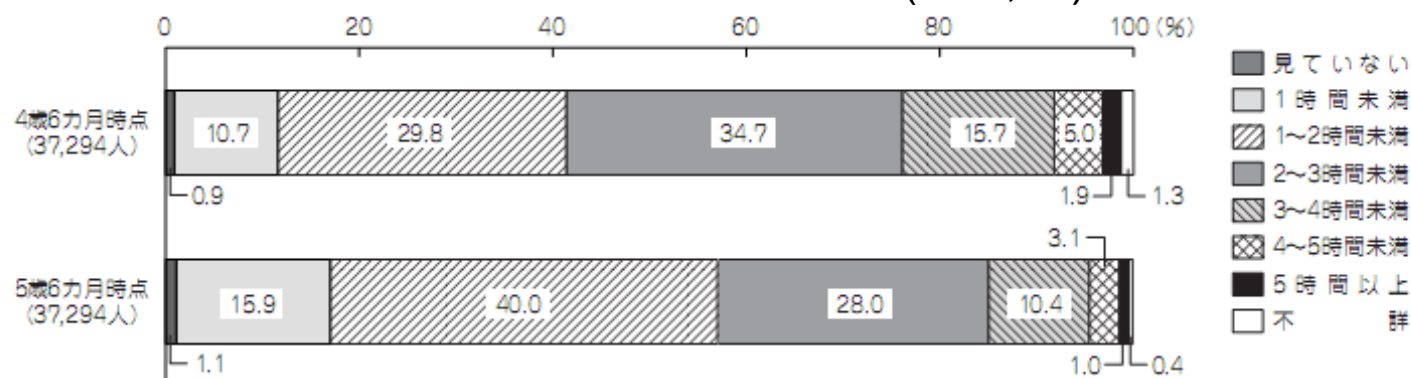
区 分	計	小 学 校	中 学 校	高 校
合 計	23,936 (100.0)	3,129 (100.0)	10,205 (100.0)	10,602 (100.0)
友だちや家族などの人間関係	7,875 (32.9)	865 (27.6)	3,485 (34.1)	3,525 (33.2)
不登校・引きこもり等	4,500 (18.8)	870 (27.8)	2,175 (21.3)	1,455 (13.7)
軽度発達障害等の集団生活等への不応	3,426 (14.3)	553 (17.7)	1,154 (11.3)	1,719 (16.2)
性に関する問題	1,652 (6.9)	17 (0.5)	630 (6.2)	1,005 (9.5)
身体症状からくる不安や悩み等	1,155 (4.8)	301 (9.6)	588 (5.8)	266 (2.5)
リストカット等の自傷行為	1,089 (4.5)	15 (0.5)	524 (5.1)	550 (5.2)
いじめ	976 (4.1)	139 (4.4)	615 (6.0)	222 (2.1)
不眠や過眠等の睡眠障害	652 (2.7)	20 (0.6)	270 (2.6)	362 (3.4)
拒食や過食等の摂食障害	534 (2.2)	35 (1.1)	150 (1.5)	349 (3.3)
虐待	340 (1.4)	134 (4.3)	146 (1.4)	60 (0.6)
その他	1,737 (7.3)	180 (5.8)	468 (4.6)	1,089 (10.3)

養護教諭が必要と判断して支援した、子どものメンタルヘルスに関する主な問題(H16年度)

< 子どもの問題 >

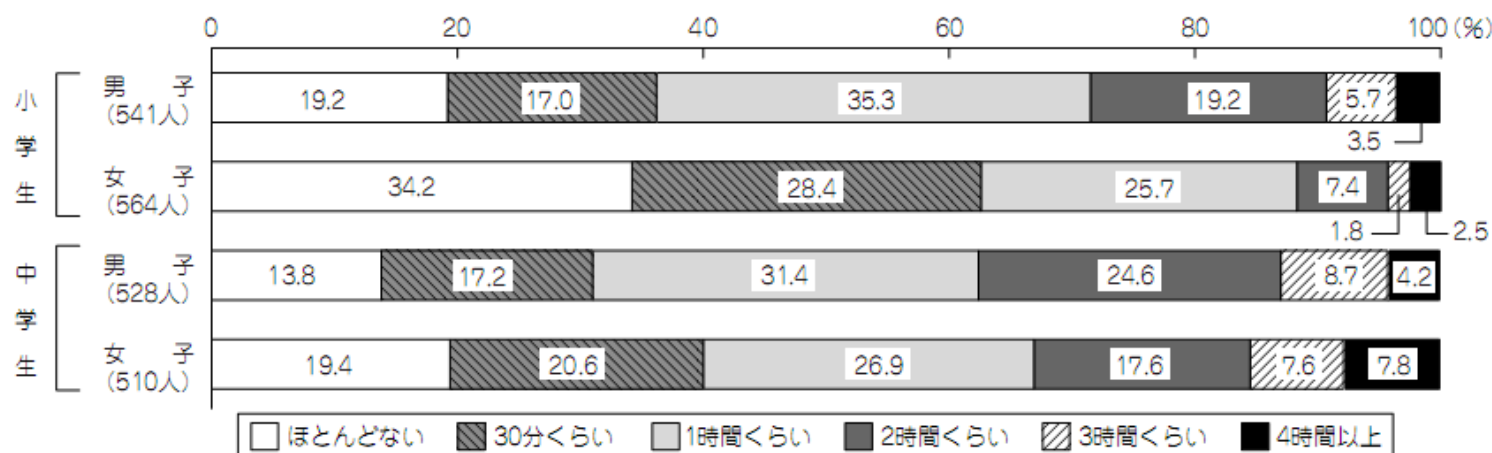
幼児、小学生・中学生のメディアに接する時間

□ 幼児のふだんの日にテレビを見る時間の年次比較(H18,19)



(注) 調査対象は、IX-1-1図(注)に同じ。ビデオ、DVDを含む。 資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「第6回 21世紀出生児縦断調査の概況」2007

□ 小中学生がテレビゲームやパソコン、携帯電話のメールをする時間(H18)



(注) 調査対象は、IX-1-8図(注)に同じ。

資料：内閣府政策統括官(共生社会政策担当)「低年齢少年の生活と意識に関する調査」2007